川越時間旅行 49

市立博物館 Tel 222-5399

一葉の写真から

古写真には、たくさんの情報が詰まっています。左の写真は明治時代の一番街を写したもので、市内の風景が記録された最古の写真の一つです。

左側手前の看板には「埼玉県川越警察署 川越分署」と記されています。『川越警察署 沿革調』によると、同分署は、明治11年（1878）から同15年（1882）まで、現在の仲町交差点にあたる「志義町丁字路」に置かれていたとされています。このことから、この写真が撮影された時期と場所を知ることができます。通りを挟んだ向かい側には「松屋呉服店」があり、店先には大きく屋号が染め抜かれたのれんが見えます。町並みを見ると、ほとんどの店舗が木造の板ぶき屋根になっていますが、瓦ぶきと思われる建物も見受けられます。このように、この写真からは、明治26年（1893）の大火によって失われた町の様子をうかがい知ることができます。

現在開催中の収蔵品展「モノクロームの追憶」は、同館所蔵の古写真を中心に展示しています。皆さんも古き良き川越の風景に思いをはせてみませんか。

カブ

春の七草の「すずな」としても知られるカブ。実は病気にかかりやすく、病害虫防除が大変な野菜でもあります。さらに、葉物野菜に比べて重さがあるので、出荷時の作業負担が大きくなりがちです。そのため、葉物野菜に作目を転換する生産者も少なくありません。このような中、川越では下赤坂などでカブの栽培が盛んに行われており、県西部地域のカブ生産量の多くを担っています。

「クリームシチューやおでんの具にしてもおいしいですが、新鮮なカブは、サラダや漬物にするのがおいしいですね。私のおすすめは甘酢漬けです」と話してくれたのは、大野原出荷組合長の深田圭一さん（下赤坂）。

川越産のカブの多くは、市場を通じて流通していますが、市内の直売所でも購入することができます。さまざまに料理して、川越産のカブをおいしく食べてみませんか。

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜

カブ、ホウレンソウ、トマト、キュウリ、コマツナ、ブロッコリー、ネギ、イチゴ、キャベツ、ダイコン、ミズナ、タマネギ、のらぼう菜、レタス、春菊

編集後記 どんぐり

保岡勝也は、明治後期から昭和初期にかけて活躍した建築家です。東京丸の内のオフィス街の設計にも携わった同氏は、大正7年（1918）に旧第八十五銀行本店（現・埼玉りそな銀行川越支店。写真上）の設計を手がけました。当時の副頭取・5代目山崎嘉七にその技量を買われ、銀行と別邸（表紙写真）の設計を依頼されたのではないかと考えられています。

現在は、歯科医院となっている旧山吉デパート（写真下）も同氏の作品の一つで、既に取り壊された川越貯蓄銀行を併せて川越では、4つの建物を設計しました。気温も上がり、外出が心地良い季節です。蔵造りの町並み周辺に点在するモダンな建物を見に出掛けてみてはいかがですか。

広報川越1364
■発行日／平成28年4月10日（毎月10日・25日発行）
■発　行／川越市　〒350－8601埼玉県川越市元町1丁目3－1　http://www.city.kawagoe.saitama.jp/
市役所代表 Tel049－224－8811　Fax049－225－2171
■編　集／広報室

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。 リサイクル適性Ⓐ
私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。